

椿 広計 副会長 デミング賞受賞

山下 智志*



副会長の椿氏がデミング賞を受賞いたしましたのでご報告します。

デミング賞は、TQM（総合品質管理）の進歩に功績のあった民間の団体および個人に授与されている賞であり、日本科学技術連盟により運営されるデミング賞委員会が選考を行っています。アメリカの品質管理の専門家である統計学者 W・エドワーズ・デミング博士からの寄付を契機として、1951年に創設されました。デミング賞にはいくつかの部門が存在しますが、今回椿氏が授賞したのは「デミング本賞」で個人を対象とした賞です。

今回、授賞の対象となったのは以下の椿氏の活動が評価された結果です。

1. 統計的方法等を製品・技術開発プロセスの情報循環で適正利用のための国際規格原案作成を目的に ISO TC69/ SC8 を立ち上げ、初代議長を9年間務め、7件の ISO 規格発行に貢献しました。
2. 「ISO TC207：環境配慮設計の主査」として環境的側面を考慮した品質設計の標準化を推進し、環境マ

ネジメントシステム審査員登録制度の普及に貢献しました。

3. これまで 100 万人以上の受検者を出した品質管理 (QC) 検定の創成、運営に携わり、品質管理に関する教育事業に貢献しました。
4. 日本品質管理学会会長を2年務め、当学会の活動を支えるとともに、新たな学会活動の深化を進めました。

椿氏は東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了後、同工学部計数工学科助手、慶應義塾大学理工学部数理科学科専任講師、筑波大学社会工学系助教授、教授を経て、統計数理研究所へ在籍派遣されました。以降、同研究所副所長を勤めたのち、独立行政法人統計センター・理事長に就任、現在は統計数理研究所所長として統計数理科学の発展と普及に努めています。研究者としては、「品質管理・工業標準化に関する研究及び活動」、「臨床データベースに対する統計的検定法の研究」、「リモートセンシングなどの計測データを用いた制御法の研究」、「統計科学の諸分野への適用」などがあり、これらの研究により、経済産業省工業標準化事業経済産業大臣表彰、日本経済新聞社品質管理文献賞受賞、計測自動制御学会論文賞・同連沼賞、日本統計学会活動賞をすでに受賞しています。

このように椿氏の研究、教育、管理運営、社会貢献および統計科学の発展に対する功績は極めて顕著であり、すでに多くの評価を得ています。さらに、品質管理において最も名誉あるデミング賞が加わることは、椿氏本人だけでなく、副会長として貢献していただいている我々横幹連合関係者としても喜ばしいことと感じます。

心からお慶び申し上げます。おめでとうございます。

*統計数理研究所

Received: 12 October 2021.